

## 県内復興・経済日誌（2019年12月）

1日

### 《ビームスコラボ第19弾商品発売》

県とビームスジャパン（東京都）が連携して本県の魅力を発信するプロジェクト「ふくしまのものまっぷ」の第19弾として、セレクトショップ「BEAMS」が、菓子店「玉嶋屋」（二本松市）と合作したケーキと羊羹の発売を開始した。発売場所は東京都新宿区の店舗「BEAMS JAPAN」で、「玉嶋屋」の定番商品玉羊羹や本煉羊羹、宝潤羹に加え、今回のコラボレーションにより誕生したビームス限定シベリアケーキの4商品を取り扱う。

2日

### 《2031年末までに使用済み燃料プールから燃料搬出》

政府は、廃炉・汚染水対策チームの会合で、東京電力福島第一原発の廃炉に向けた工程表「中長期ロードマップ」の改定案を示した。その中で2031年末までに、搬出を終えた4号機を除く1～6号機全ての使用済み核燃料プールに残る燃料計4,741体の搬出を目指すとして初めて明記した。今後、廃炉作業ごとの目標時期を精査して正式決定する。

4日

### 《郡山市とNTT データ東北、要介護認定事務にAI導入》

郡山市とNTT データ東北（仙台市）は、介護保険サービスに必要な「要介護認定」で、人工知能（AI）の言語処理技術を導入した全国初の実証実験に向けた協定を結んだ。これまで職員が行っていた確認作業をAIが行うことで、適正な認定や作業の効率化を図る狙いがある。結果は2020年1月に取りまとめる。一定の成果が得られた後、実用化に向けた動きを加速させる。また同市は実証実験の効果などを踏まえ本格導入を検討する。

4日、5日

### 《コンサート電源に県産水素を活用》

さいたまスーパーアリーナで開催されたアイ

ルランドの世界的ロックバンド「U2」の来日公演で、福島再生可能エネルギー研究所（郡山市）で製造された県産水素で発電した電気が使われた。再生可能エネルギーでつくられた水素が、著名な海外アーティストのコンサート電源として初めて供給された。

10日

### 《福島ロボットテストフィールドと米自治体が連携協定締結》

県が整備したロボット実証拠点「福島ロボットテストフィールド」（南相馬市、浪江町）は、セントポール島アレウト族コミュニティ（米アラスカ州）と、ドローン（小型無人機）の試験などに関する連携協定を結んだ。同コミュニティは、北米最大規模の飛行試験空域を持つ試験拠点を運営しており、日米両国のドローンに関する情報交換や、両拠点間での試験環境の相互補完などが期待されている。

### 《大玉村、メガソーラー新設抑制条例案提出》

大玉村は、大規模太陽光発電施設（メガソーラー）の新設を事実上規制する条例案を村議会に提出した。条例案では、太陽光発電設備の新設前に村の同意を得ることを義務付けている。県によると、同様の条例は県内で初めてという。同村は景観や防災面で懸念があることから6月に「メガソーラーの設置を望まない」とする異例の宣言をしており、条例案はその宣言の理念を踏まえたものである。

12日

### 《斎栄織物「ものづくりの達人たち」大賞受賞》

斎栄織物（川俣町）は、繊維産業・産地で独自の技術を開発した人々を顕彰する日本ファッション産業協議会主催のJクオリティーアワード2019「ものづくりの達人たち」で大賞を受賞し、東京都でその授賞式が行われた。同社は、世界一薄い絹織物「妖精の羽（フェアリーフェザー）」を開発するなど、高い技術力が世界から注目を集めている。

《福島—台湾便運航停止》

福島空港にチャーター便を運航している台湾の遠東航空は、経営不振のため13日から全ての運航を停止すると明らかにした。県空港交流課は、台湾の他の航空会社も視野に入れながら今後の対応を検討している。

16日

《楽天トラベル訪日人気上昇ランク、本県4位》

旅行予約サービス「楽天トラベル」の2019年訪日旅行（インバウンド）人気上昇都道府県ランキングで、本県が4位（前年同期比56.2%増）に輝いた。昨年のランキングでは2位に入っており、2年連続でベスト5入りした。本県では猪苗代・表磐梯エリアの上昇率が前年比で最も高く、次いで郡山・磐梯熱海エリア、磐梯高原・裏磐梯エリアが続いた。会員制交流サイト（SNS）によるプロモーション効果が要因の一つとして考えられる。

17日

《聖火リレー、第一走者は「なでしこジャパン」》

2020年東京オリンピック・パラリンピック組織委員会は、東日本大震災が起きた2011年にサッカー女子ワールドカップドイツ大会で優勝した日本代表「なでしこジャパン」のメンバーを聖火リレー最初のランナーに起用すると発表した。3月26日、「J ヴィレッジ」（檜葉町、広野町）を出発、大会理念の「復興五輪」を世界に発信する。

20日

《夜ノ森駅周辺の一部、3月10日避難指示解除》

富岡町、国、県は、特定復興再生拠点区域内において、JR 夜ノ森駅周辺の一部について2020年3月10日午前6時に避難指示を先行解除することで合意した。これにより町の名所として知られる桜並木は、解除済みの300メートルと合わせて計860メートルが自由に行き来できるようになる。

22日

《相馬福島道路、相馬—相馬山上 IC 開通》

国が復興支援道路として整備を進めている東北中央自動車道「相馬福島道路」の相馬—相馬山上インターチェンジ（IC）間（6km）が開通し、東北中央自動車道と常磐自動車道が接続

された。広域観光の活性化や物流円滑化による地域産業の伸展、救急医療体制充実などで一層の効果が期待されている。

23日

《本県新酒米名称、「福乃香」に決定》

県が開発を進めてきた高品質の酒造好適米「福島酒50号」の名称が「福乃香」に決まったと、内堀知事が定例記者会見で発表した。福乃香は「芳醇・淡麗・旨口」といわれる県産酒を追求した酒造好適米で、その名には香り高い日本酒となるコメの特性と、消費者や蔵元、生産者ら全ての人に福が訪れるようにとの願いが込められている。

《県産牛肉、2020年度から抽出検査》

県産牛肉の放射性物質検査方法を巡り、県は検討会議で、早ければ来年度にも現在の全頭検査から全戸年1頭以上の検査（老齢牛は全頭検査）に緩和する案を示した。国と協議を重ね、2020年1月に検査方法を定める。県産牛肉は原発事故後に検査した約17万2千頭が全て食品に含まれる放射性物質の基準値（1kg当たり100ベクレル）を下回り、2016年4月以降は50ベクレルを超える検体も出ていない。

26日

《全町避難が続く双葉町で3月4日初の避難解除》

東京電力福島第一原発事故に伴う避難指示について、国は双葉町の帰還困難区域の一部と避難指示解除準備区域を2020年3月4日午前0時に、大熊町の帰還困難区域の一部を同5日午前0時に先行解除する。国と県が、双葉、大熊両町とそれぞれ協議し、解除日について合意した。全町避難が続く双葉町では初めての解除となる。

28日

《2017年度県内経済成長率、6年ぶりマイナス》

県は、2017年度の県民経済計算（確報）の中で、2017年度の県内経済成長率は名目で△0.9%、実質で△0.8%と、いずれも6年ぶりのマイナスとなったと発表した。製造業が好調に推移した一方、東日本大震災からの復旧・復興工事の進捗などを背景に、建設業や公務が減少に転じたことが要因とみられている。